

令和5年度 小林市立野尻小学校 学校関係者評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

| | |
|--------------|--|
| 学校経営 ビジョン | ○「教育活動の充実」と「働き方改革」の一体的推進を図ることにより、知（きらきら）・徳（にこにこ）・体食（ぐんぐん）調和のとれた児童を育成する。 ～「行きたい、通わせたい、育てたい」と心から思え、地域とともにある学校づくりを通して～ |
|--------------|--|

| 項目 | 本年度の重点目標と 目標達成のための手段 | 結果の考察・分析及び改善策等 | 自己 評価 | 関係者 評価 | 学校関係者評価のコメント |
|----------------------------|--|---|----------|-----------|--|
| 知 育 | ○ 学力の向上 「夢に向かって自分の考えをもち、進んで学ぶ児童の育成」 「学びたい度」80%超え、「全国学テ」「みや学テ」県平均超え、単元テスト平均85点超え | | | | ○ 学力に比べ、表現力に課題があるとして研究授業の実施、工夫した指導が図られている。 ○ タブレットPCの活用、図書の間貸出目標の設定など、学力向上に積極的な取組が図られている。 ○ 「全国学テ」「みやざき学テ」において県平均を超えた成績を残したことは高く評価します。 ○ 今後、学力と同時に自分の意見を明確に伝えられる表現力の向上のための授業に力を入れて欲しい。 ○ 鉛筆の持ち方が正しくできるように更に指導をお願いしたい。 ○ 校内Wi-fi環境改善は、野尻小が他校に比べてどれだけ悪いのか、どのように悪いのか。予算的なものであれば、予算要求をして改善できる余地はあるのか。 ○ 具体的な取組として、3・4年算数・国語のボランティア活用をあげていて活用がなかったのはなぜか。 ○ キャリア教育もいろいろな形があると思われるので、支援センターだけでなく、広くキャリア意識がもてる体制づくりを求む。 ○ 学習面の取組については、概ね目標が達成できているようですので、日々の努力に感謝します。 ○ 鉛筆の握り方について引き続きよろしくお願ひします。読書で表現や言葉についても勉強になると思います。目標に近づくようご指導をお願いします。 ○ 学校側の努力もあり地域の方々や企業との協力関係も良好なようです。今後も愛される野尻小であり続けて欲しいです。 ○ 「全国学テ」など、平均を上回っているのは先生方のおかげだと思います。子どもたちが「学びたい!」「楽しい!」と思えるように今後も指導をお願いします。 |
| | 1 授業の充実と改善 | ○ 年間2回の研究授業を行い、一人一人の授業力向上に努めた。指導過程を工夫し、個に応じた指導、表現力向上のための授業を実践することができた。 ○ タブレットPCの活用については、月間平均60時間以上の活用が継続しており、職員、児童ともに活用スキルが上がっている。 ※ 校内のw i - f i環境の改善が望まれる。 | 3. 3 | | |
| | 2 学力調査等の活用 | ○ 各テストの分析結果を活用し、弱点を意識して日々の授業を行うことができた。 ○ パワーアップタイム（習熟の時間）を利用して各学年の課題に応じた取組を行うことができた。 | 3. 0 | | |
| | 3 学習規律（授業中・家庭学習）の徹底 | ○ 1・2年生児童で正しい鉛筆の持ち方ができている児童は12月現在68%である。今後は、1・2年に限らず、全学年で同じように指導を行っていきたい。 | 3. 4 | 3. 8 | |
| | 4 読書・読み聞かせの推進 | ○ 12月現在、児童一人あたりの平均貸出冊数は107冊である。目標の150冊に向けて年度末まで継続して指導を行っていく。 ○ 読み聞かせグループ「たんぽぽ」の皆さんの読んでくださる本が面白く、読み聞かせの時間「ブックタイム」には児童も興味深く聞いている。 | 3. 5 | | |
| | 5 個に応じた学習支援の工夫 | ○ 算数・国語での活用はなかったが、児童プリントの丸付けや様々な作業、持久走の際も見守り等で協力をいただいた。 ※ ボランティア会議を実施し、次年度の有効な活用の在り方あり方について協議を行っていく。 | 3. 2 | | |
| | 6 キャリア教育の充実 | ○ 小林市キャリア教育支援センターとの連携はなかったが、地域の様々な団体等の協働と連携により、キャリア教育の推進が図られた。 | 2. 6 | | |

| | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|------|--|------|
| 徳 育 | ○ 豊かな心の育成 「思いやりの心もち、よりよく生きることのできる児童の育成」 「学びたい度」学校への満足度（学校が楽しいと思う児童）100% | | 3. 8 | ○ 凡事徹底をはじめ、小学生としてのマナー、ルールの周知、指導により、豊かな心の育成が図られている。 ○ 人権教育推進校として様々な取組がなされている。 ○ 学校が楽しいと思う⇒100%素晴らしい成果です。 ○ 凡事徹底については今後とも一つ一つ指導を継続していただきたい。野尻小の子どもたちはよく挨拶してくれますよ。 ○ いじめ・不登校については現在でも社会問題となっているが、野尻小では全職員一丸となった取組により0%となっており、高く評価します。 ○ 凡事徹底の廊下歩行が今ひとつであるが、どういう指導方法で歩行の良し悪しを行っているのか知りたい。 ○ いじめを発見する手立てとしての「あのねアンケート」は有効と思われるので、継続して対応して欲しい。また、不登校は何が原因なのかを見いだすのは難しいと思うが、現時点でいないことは対応がうまくいっていると思われる。 ○ 先日、テレビで青山学院の原監督が選手に寮から外出するときに名前の表示色を変えることの決まりの話がありました。凡事徹底の取組と共通するものだと思います。ちょっとしたことに気を配り、習慣化することは大人になっても大切なことですね。 ○ 収穫祭は少しの時間だけしか見学できませんでしたが、餅つき体験では子どもたちが生き生きとした様子に触れ、元気をもらいました。 ○ 定期的にアンケートなどを行っていることはありがたいです。なかなかアンケートでも書けなかったりする子もいたりと思うので、子どもたちの様子や表情をみて寄り添っていただけるとありがたいです。 | |
| | 1 「凡事徹底のじりっこ」 「むごんの場」等による 望ましい生活習慣の定着 | ○ 「のじりっ子の一日」を4月の参観日（懇談）で配付し、家庭への周知を図ると共に、各学級でも担任による指導を行った。 ○ 「凡事徹底」について・・・ ・会釈はよいが、挨拶や返事がもう少し ・1分前行動は概ねよい ・トイレのスリッパ等、並んでいないときがある ・廊下歩行が今ひとつ ※ 全職員での指導と見守りを継続していく。 | | | 3. 2 |
| | 2 定期的なアンケートや教育相談の充実 | ○ 教育相談については、学級担任を中心に適切な対応ができています。 ○ アンケートの結果をもとに、課題が見付かった場合は組織的な対応を行っている。 | | | 3. 8 |
| | 3 いじめ未然防止のための徹底指導や不登校への組織的対応 | ○ いじめ・不登校については、全職員で情報を共有し、指導の方策を協議している。12月現在までの、いじめ認知解消率100%、不登校率0% | | | 3. 8 |
| | 4 実態に即した道徳の時間の指導改善と人権教育、特別支援教育の推進 | ○ 県の人権教育推進校として、人権についての授業や職員の研修、家庭教育学級における人権についての講話等充実した取組がなされている。 ○ これまでにすべての学級において「ピア・サポート」に関する授業を行ってきた。1月以降「SOSの出し方」に関する授業実践を行う予定である。 | | | 3. 8 |
| 5 自分で考えて実行するボランティア活動等の推進と豊かな体験活動の充実 | ○ ボランティアについては学年、委員会を中心とした活動が行われている。清掃についても、班長を中心にしっかりと取り組んでいる。 ○ 米作りや、イモの栽培、棒踊り、社会科見学等、地域の方の協力の下、充実した活動が行えた。 | 3. 6 | | | |

| | | | | | |
|--------|--|--|------|--|------|
| 体 育 | ○ 体力の向上「自分の健康や体力に関心をもち、将来にわたり心と体を鍛え続ける児童の育成」 | | 3. 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「体力向上プラン」作成、個に応じた体力向上の指導、自発的な運動遊びをする工夫などにより、体力向上が図られている。 ○ 体力テストにおいて、男女ともに県平均並、もしくは超えている、素晴らしい成果です。高く評価します。 ○ 自力での登校はPTAとの関係もあると思うが、更に話し合いを進め、高めていただきたい。 ○ むし歯治療率は前年より少し悪くなっているようです。指導をよろしくをお願いします。 ○ 最低500m程度は歩く自力登校は、集団登校ができるかや安全上の問題で保護者からの理解を得るのが難しいと思われるが、何らかの習慣的運動ができる環境をつくりあげて欲しい。 ○ むし歯治療率75%は、治療に行く時間の問題もあり、保護者との連絡調整等を図りながら、より治療率を上げられるよう啓発等をしてほしい。 ○ 体力テストでA判定は15名ということですが、昼休みの運動遊びを行っている人との関連とか見える化できると、徒歩通学、昼休みの運動遊びの推進にも役立つ可能性があるように思います。 ○ 虫歯の治療についても、家庭の意識の問題もあり、学校側だけで解決するのは厳しい項目ですよね。 ○ 体力テストでの県平均並は素晴らしいです。今後も継続してもらいたいです。 ○ 薬品管理の徹底と安心・安全な取扱はよろしくをお願いします。 | |
| | 1 体力向上プランに基づく 体育指導の工夫・改善 | <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでのコロナ禍による児童の体力低下が心配される。日常的な取組の強化により、児童の体力向上を目指したい。 ○ 集団行動の基本様式については、各学級での指導が、運動会での成果として表れていた。 ※ 体育科の授業改善のため、職員への研修を行っていく。 | | | 3. 3 |
| | 2 体力テストの分析と課題改善への取組の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度当初に「体力向上プラン」について職員の共通理解を図ることができた。 ○ 本年度の体力テストにおけるA判定児童は15名（5月在籍111名中）である。男子児童はほぼ県平均並であり、女子児童はほとんどの学年で県平均を超えている。 | | | 2. 9 |
| | 3 運動遊びや多様な運動種目への関心を高める体育的活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 昼休みについては、元気に運動遊びができていた児童が多い。1・2月は委員会児童による縄跳び大会やドッジボール大会を予定している。 ※ 児童がより運動遊びを行いやすい環境づくりを行っていく。 | | | 3. 4 |
| | 4 自力登下校の指導の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 徒歩での登校はよい状況とは言えない。児童並びに保護者の意識を高めていく必要がある。学校からの更なる啓発も必要である。 | | | 2. 9 |
| | 5 家庭と連携した健康教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校保健委員会やほけん便りでの情報発信により、学校全体で改善への取組を行うことができた。12月末現在のむし歯治療率75% ○ 「フッ化物洗口」については計画的な実施を行うことができた。安全・安心な取組となるよう、薬品管理、安全な実施方法の徹底を図っていく。 | | | 3. 5 |

| | | | | | |
|----|---|--|------|--|------|
| 食育 | ○ 食育の充実 「望ましい食習慣を身に付け、将来にわたり、健康な生活を送る児童の育成」 | | 3. 8 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康な生活を送るための食事の大切さを、学校栄養職員、家庭と連携を図り推進されている。 ○ 残食0は大変大切な取組と思います。食べ物を大切に思う心を更に指導をお願いします。 ○ 元気な子どもたちですから、給食時のマナーはなかなか大変かと思いますが、無理のない指導をお願いします。 ○ 食育については、近年関心が高まっているので、学校、家庭などの対応には問題ないと思っている。 ○ 学校給食をはじめ、学校内で食に関する授業が行われたことは、生きることに對するあらゆる意識につながることであると思うので、今後も充実した食育を進めてもらいたい。 ○ 弁当の日は、実施時期を保護者に配慮し実施され、親子の絆を強める機会になったと考えます。 ○ 食物アレルギーは、命に直結する問題で研修の実施された結果、安全への意識が高まったことは素晴らしい成果と考えます。 ○ 食に感謝する取組は今後も継続してください。 ○ 残食0はとてもよいことだと思います。少食な子や偏食のある子どもたちへの対応は大変でしょうが・・・。 ○ アレルギーについては校長先生をはじめ、しっかりと対応ができ、意識が高いので安心できると思いました。 | |
| | 1 小中一貫した食育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「食の贈り物」については夏季休業中の課題として取り組ませ、家庭との連携した食育が実施できた。 ○ 学校栄養職員とのT・Tによる食に関する授業（4・6年）を行うことができた。 | | | 3. 7 |
| | 2 家庭と連携した「弁当の日」の取組の充実 | ○ 無理なく取り組めるよう、保護者の意見も取り入れながら長期休業中に実施したことで、親子でゆとりをもって取り組めた。 | | | 3. 6 |
| | 3 望ましい食習慣の育成と健康に係る個別指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 残食についてはほぼ0の状態である。偏食傾向や小食の児童もいるが、各学年とも個に応じた指導がなされている。 ○ 小林市保健センターと連携し、食育個別相談を全児童対象に実施している。2年目を迎え、保護者の栄養相談のよりどころとなっている。 ○ コロナ禍からの継続した指導により、給食時はマナーよく食事をとることができている。 | | | 3. 6 |
| | 4 食物アレルギーへの対応と安心・安全な給食の提供 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 食物アレルギーについての共通理解、夏季休業中の職員研修により、職員の安全への意識を高めることができた。 ○ 宿泊を伴う学習時には、施設や旅行業者との事前の打ち合わせを入念に行い、事故防止に努めることができた。 | | | 4. 0 |
| | 5 食に対する感謝の心の育成 | ○ 学校給食感謝旬間の実施により、給食への感謝の気持ちを高める取組を行っている。児童会活動や家庭からの協力を得て、食へ感謝する心を育てるための活動の充実を図っている。 | | | 3. 8 |

| | | | | | |
|-----|-----------------------|--|------|------|--|
| その他 | ○ サービス規律の徹底及び働き方改革の推進 | | 3. 5 | 3. 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○ サービス規律の徹底、働き方改革への積極的な取組が図られている。 ○ 学校の職員が規律よく楽しく働くことが子どもたちへの最高の指導だと考えます。働き方改革を推し進め、職場環境の改善に努めていただきたい。 ○ 現場教員の勤務実態はなかなか目に見えないものであり、児童生徒に対する指導は当然であるが、教員自身がストレスなどを溜め込まないように、担当職員だけでなく、学校全体でフォローできる職場としての環境構築を図ってもらいたい。 ○ コンプライアンス研修等を行うことは大切であるが、学校がそのことだけに走ると教員の意識が堅くなり、楽しく過ごせる学校の雰囲気は阻害されかねないので、バランスを考えた行き過ぎにならないよう注意して取り組んでもらいたい。 ○ 教員の職場環境については、よく報道されており憂慮するところです。メンタルヘルスにも留意され、快適な職場環境が続くことを願います。 ○ 学習支援ボランティアの活用はとてもありがたいと思います。「働き方改革」もですが、子どもたちにとっても、ボランティアの方々と少しでも関わることで得るものもたくさんあると思います。 |
| | 1 サービス規律の徹底 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内コンプライアンス研修にて本校の課題を洗い出した結果を基に、対応策について協議し、職員の危機意識を高めることができた。 ○ コンプライアンスチェックを毎月実施し、職員の意識向上を図ることができた。 ○ 風通しのよい職場環境づくりを通して、今後も法令及び倫理等に反する違反ゼロを維持していきたい。 | | | |
| | 2 働き方改革の取組の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本校において実施している「時差勤務」は県内においても先進的な取組である。職員のワークライフバランスの充実のためにも有効である。 ○ 11月末までの時間外勤務の月平均時間は27.5時間であり、本校における働き方改革が進んでいると考えられる。 ※ 学習支援ボランティアの活用については、より連携を深め、効果的な活用方法について協議を行っていきたい。 | 2. 8 | | |

| | |
|------------------------------|--|
| 次年度の方 向性につい ての 校長所見 | <p>知育・徳育・体育・食育ともに総合評価が3を越え、一定の成果が見られると共に、学校関係者からも高い評価をいただいた。今後は、働き方改革をさらに推進しつつ、基本的な学習、生活習慣の充実を図り、今年度明らかになった課題の解決を目指して、新たなプランと具体的な取り組み事項を決めて達成に向けて、地域や保護者の皆様のお力をお借りしながら、職員一体となって努力していきたい。</p> |
|------------------------------|--|